諸國旅雀

1 13
563

諸國旅雀　一

序

總目錄

東海道五十三次
并佐屋廻り

名所遺跡

秀歌来由

古戦場

今極り

新駄賃分

イ13
563

1 13
563

緒公儀御
混池とでいふる地
地とおもふるわしつ
天の運輦八ぶ
沼まくらへ仕とうて用明の皇
又幾七道をさだ光文武の皇と十
六ヶ國をしらまつりあらせ
玉をうごかす征代にいざ来
南北海懐のあらんとぎりと法
光ぐりて郡縣をうまでの名
八法石所の舊法たづひるぐ
や天之上より雲をつくまを雄
詳し遊らめて蟠踞はれしく

[illegible]十年[illegible]乃平[illegible]
化[illegible]
紙は溢[illegible]
世[illegible]
て世[illegible]
[illegible]人[illegible]
水[illegible]
[illegible]

諸國案内旅程同錄

一之巻

一丁目
一京より江戸まで東海道
五十三次乃之内今極付賃付
寺社縁起名所旧跡引分
荷物輕重付き銭る積

二之巻

五十三目
一江戸より京大坂まで東海乃
道之内今極上り駄賃付
七八十目
一江戸より上野之國下野之國
常陸之國奥羽出羽日光山

江之分上ノ木澤、之分札道
仙臺森岡ハ之ノ之法
一江戸ノ出羽庄内鶴岡ノ道
一岡川ハ通
一江戸ノ日光山、之本ノ
一江戸ノ足利ハ足利ニ
上野金ヶ野ノ道之法
一金ヶ野ノ日光山ハ之ノ
一江戸ノ下総國佐倉、之道
一江戸ノ八王子ハ道、甲山ノ云
一江戸ノ常陸之國鹿島、
之ノ奥州赤館、之ノ
一江戸ノ水戸ノ金三春長久ノ
一水戸ノ平中村、之道
右何モ名所旧跡沈ク

三之巻

一京ノ伊勢、之道ノ法
今極ノ賃付　各所異
一京ノ江戸ノ木曽海道

今極駄賃付 名所旧記

一京より江戸へ之中仙道 六十一丁目

今極駄賃付 道之乃

一京より江戸へ之小堂乃 六十二丁目

今極駄賃付 乃之れわ

名所旧記 まゝの分乃

小出之分山所之名所べし

四之巻

一京より紀州高野へ之道 初丁

名所倍記

高野山絵図

一京より紀州和歌山へ之乃 七丁目

名所大系

一京より西国路 本へ之道

乃之法 祭旧記 名物

一京より奈良長谷 九丁目 并寺 初瀬より

芳野山へ之道之法

芳野山之図

名所旧記

一京より吉野之乃之法 十八丁目

来に吉野より方くの居座名所

一京より和州野山へ之道 五丁目

名所旧記 道之乃

一京より鞍馬山へ之道 九十丁目

山ちの法

山之絵図

名所旧記

一京より清水峠并に愛宕山へ之道　九十三丁目
名所旧跡并に引布繪圖

五之巻

一京より大和國中へ之道　初丁
郡山　法隆寺　あすか　南とうだい　大仏　二月堂　奈良
名所旧跡并に引布之法

一黄檗山并に宇治里名所　丁数目　繪番付

一北野より高野山へ之道　九十目

一粉瀬より吉野山へ之道　同丁

一加茂より伊勢へ之道　同丁

一那山より伊勢へ之道　九十三丁目

一加引金沢より伊勢へ之道　九十三丁目

一那加金澤より尾加交へ之道　九十五丁目

一加引金沢より尾張湯本へ之道　九十六丁目

一加加交勝之坂并恵美の松　九十八丁目

一加引金沢より北陸へ之道　九十九丁目

一信引本より江戸へ之道　百丁目

一信見小海より上野之國へ　同丁

庄内ゆる航道

一信濃川上田より同訳紡へ出る
元一丁目
一信州下諏訪を経て甲州へ
元二丁目
一濃川関ヶ原より保ヶ尾より舟路
同丁目
一越後国上ヶ根津越
元三丁目
信濃上田より道法
元四丁目
一越前敦賀より狭小演へ之
元五丁目
一越中滑川より荒演道

一越前敦賀より狭小演へ之
元六丁目
一後州奥津より甲州へ延へ之道
同丁目
一延より岩淵へ之道
同丁目
一甲州府中より尾州へ之
右何れも名所旧跡之

六之巻

初丁
一大坂より江戸へ之舟路
五丁目
一同海上難所
同丁目
一大坂より宵馬湯本へ陸道

六十目
一大坂から方々へ之道之法
七十目
一西國三拾三番札所観音廻之道
一四国遍路道之法并に歌
十五十目
一大坂から出雲國杵江へ之陸路
同丁
一同から因幡國鳥取へ陸路
十六十目
一播州姫路から備前岡山へ之道
一備後福山へ之道
十七十目
一安芸廣島へ石見浜田へ之道
同丁
一備前岡山から因幡鳥取へ之道
十八十目
一備前岡山から伯耆倉吉へ之道
同丁
一備前西大川へ之道
同丁
一備中小倉から長崎へ之道
十九十目
一筑後久留米から肥後熊本へ之道
同丁
一義作津山から出雲杵江へ之道
同丁
一松江から筑前金沢へ之道
廿十目
一松前から奥へ之道
同丁
一奥州から蝦夷へ之道

大いづまも名所旧跡へ之巻

七之巻

初丁 一西国船路道之法

名所 国法 并二舟ハ名所

一出つ 卜屋ヶ関 引田船 紀ノ国

四丁目 一日本國中之漕運

五丁目 一大坂ヶ西国方ゝ之海路

出崎 之道之法

五二丁目 一童後世程之

付タリ 七四節日月出程日和入

ちかのゝ ちひを問ふ

京ヶ大津之三里

一ゝ行百十二文 ゝ 荷五文 人足八十二文

二条乃城ヶ三条大橋之十丁町之

和のゝ ゝつあれ城せいらの橋乃ゝ人ヶ

四条川原 うらこの方れ名ふ高る

橋乃東のつあれ方こるの法橋ち

とふ 幾中和尚乃こうくそそ乃

ゝこ 法西法師の名つけ沙つの一歌や

ゝ ゝ 西と ゝ今ハ ゝ ゝ ゝ

風雅 とふ 名俗石 ひ ゝ 世乃

人ぶんそうとる乃 海のやうにひ

やまれゝ 方乃方よ 名ハ 絵ヶ

そそそそそ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

ゝ町やゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

ゝ ゝ 清水 大ぶ ゝ ゝ ゝ ゝ

ぶんぜんゆし ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

三条大橋

三条大橋
白川
まる山
やぐらせん
ちくぶしま
ちくぶしま
百万ん

とりつくこの人たちを酒や町
白川橋 藤ヶ岳ヶ川橋ヶ方ヶ川
午夏文 白川乃ちくれもいそたち清こ
中勢 なれて世てよとゆんと云へば
ちくり川ハ清乃いとみ面ヶ名ハ
えぐりよんもせしめや
ちくり川橋乃東の橋つめ面へ切たる
知恵院へ切たこを町の中程方
人夜乃うちよ梅乃文れ花ちけ
の中にたとひつ人うり作に知恵院
もをこ清こうと人さぬ花乃西れこい
和合乃ものしくろ者へこうのゆず
てひちるよおそくまたむるにいく程
ちくわくる山月廿五日よりおそせん
げしめりれくそ法ヶ方ちこめて
につき伏ヶうをに法ヶとをひえ山

清水寺ヶ山ヶこえの橋 恵空聖
とりよ法師みちくるヶ破選擇と以書
とつくりとて源空上人乃つくり始ヶ
せん弟子 聖空上人乃
弟子よりとくりんと以法師 徹選擇
とりよ角ん上人乃つぐてれるだくび
ぐりよ和ハ雪天乃山つの人れども大よ
とおくりしくびゆ
ちくとそ一どうにを法師乃ちゆ
とりおこうかゆ義川ヶ方ヶとべよて
きぬん乃お祈人とかうひろいと
ふくを勝三百よ方ヶ
るときこんくびせいをんつくん二
人乃法師上人のれかゆとかりか
こて来よ海ぶれてあ山乃二番ヶ
くしまる山ハれたれら又ものを
付て二番ヶ院へすを来るべくとひつく

せ〜ぶせんぐさ　ぐてれんぶいどを
さうみてれうど第よ入えしき付を
して大井川よりかぐ〜まりれえんある
ゑよでまりあ第へそでらハかく
われよりあうゑわぐのとりよふれ
いせんよりうてひうりとうからゆふ
梵中のんくわ〜えれ第とり
わげうりれげよんのれこうやぐで
をゑよるどさてわとりえぬるとり
て今ひにまあ梅和豆院ハよんのれせ
んげかされしゆ乳ゆまが決まこうん第
し浮古沼ケのかちれを一川みして
ぐうときこれるこちりこ第ゑわまこの
古あ和尚りよ祇ひ〜ゆこ
わぐ庶ろ書とんぐれのてあよと
まんげ第ゑ風さぐぐうり
とらげ第ひ〜まうぐ〜ぐ〜とつう

わうりこあこ和尚石とりふ石をけ石こと
しどけてよまきゆひ〜ゆとうやうん
よかをりの祇りく〜祇んの世つりと
世第ひし乳風石ゑこ仏ゑ雲あ
第りゆ第かどりよゆのちよりくゑこ
▲右方よ第うまんゆんれつ沼りりゑこ
円ミ三申りれ仏ゑ偽第大師のれ仏よ
てまくゑひえゑいゆよみ〜とうりれよ
やひゆよりうりまりぬを第ハちゆこ
きえてをこけりり中こみてが中ゆり
ん第ゆしわ〜こよえと仏りゆゑも
ひうぐうりゆ仏ぐゆこ第大師れ第ゑこ
▲九方人りゑのくりよ悪面院わり
いゆ〜ハ悪面院旅第院とひ毒院よ面
院と数ケゆよ第〜ゆて〜ゆ第ゆみけん
ぐくをかれりのよハゆよりられてや
ぐうりてことべきゆ〜をかれりのひうこか

れのごとくひでんかんよりわつめそや
しかひ旅業院今毎日運所はそ
ひとをくとりれくろとしひけて
めぐりつゝの新人とびんぼうなる
じやうもるおこしとわ今ハ
ひるをうをて世くいんばうにの
りて殺藏よりづろひでんかんハ名
ぢりにめてころじんれとこと
ろり世まハであやまりてひんでんぢ
といふこひ村人間の世業れ者ハ名
仮の佛ゆて仏法と者ひとるハ今
をまゆで念仏とやれ方にたを
もらかんぜんぢ・やう今業又ちが若
う由伯川者うごんり者分どるる
ひたりと上京日義へこ方ひたれ右の方に
わるこひ天重れ変へひたみ変九月十日
仏人方人衆のうわるる事像とて

もハいゆ一人りんひこんひようり西湖より
伝器人京を今れひハ平安城ごろ
ゆふ湖ひ北をうるかせるゆこよそち
せるくゆやゆ山城乃宮ゆこ兄の
ゆりとゆまるハ京の方に流れる
者と者ゆとゆづくゆ中に者ゆを
種のうくづわる中に者ゆを
こひるこひ前の者ゆこ泉田ゆこ
と者ゆとゆづくゆ三百六十種
のもれ中に薬薩と名ひて化こひ
天人方に大乃ゆ者ゆ白虎と名づく
ゆ三百六十種れば
とろて化こひ方に名ひ
もと玄武と名づくゆ三百六十種
の郡わる宝乃中に亀とろて化ら
こひへよ天子面帝て天下
をおさゆふ湖よまへ薬薩みころ

に玄武あらはれ比叡山より尾と
て地は四神相應の勝地なるを中央に
都つくらしめ万代のつくとしてさ
だめけるによつてまひとかを時ハ
とらへてくはんぎやうしあそびたる
然ればかんとうがひなま上總に
おりては京ざとでめぐりまする時
さけ八大の方へ玉とつくりてくるが
のすそいかとぞきたちどしく世ほと
やまかみと云ふ御幸乃名位とさづけさ
まひてよろづ祝しめひての為く
かくはなど他所よりむるとかかれ
れうくは地ときごいとをべしとの
あひてはよろづそ縁どうけ古へ
し今にね草縁と申されど今下
にいたりひわらんともるとき二八ひ縁へ
きこゆるとと▲存方かわらごが家へやこれ

▲わたるはむかし此所に粟田の関白と
しきりしくおさしまし高貴へ二代
山道をわたるとよふ町のれの方に
さるやの屋しじそ名物申じ是
御茶御かまでもかまちの出むこの
室ハ御乃名所まて他所今ハとこやよ
らかたる御せ　古今和歌集ニ　あやから
うきめをばよそにめとしのこぞ道行
雲のわたらぬ山の奥ともよ
わたらぬ山もいよいよまくあり
▲九の方九山よおんめ八乃社あり
よれ人へとふそのうちをめぐまし
このふもと日向の宮たらかれけ
わたらぬりあひし時此徒に八剣まず
天児屋根尊・去重・中女　鋼母　宮居
ひえ宮従もかりれしまし此宮を
おさめのまひし流るす中臣此所に居

どくりん寺ゞやしきより世乃人
あやまりて此所をやしきとてめいしよ
されどころなるゞ今は屋くらん
もぎりして志よ人なりとこまんで傳ふ
しおくよこ爾が游らも游(さき)つゞかん
あゆをきてもまれ是して魔(ま)王寺八もとさ
まじれなし▲右乃方ニもつけじある所
めそとゞんをせいんせゝもてあこいぶし
へ八れの方れ山ふそみて一が液来の人々
へまんわそげしとおりしゆへをおそ
きが先にわしたも今は右方ひくさ寺に也
▲けわげ乃みいか一丸ほよりゆゑ
さむさがき阿うしあとやころし時よ
そまり東光坊とおてこゞ庵わき人
在坂といふすのと打つ也奥列へ下て
し時はまも寔京よ一と対あひしらぞく
▲うじがみところは不秋かけて通べが也

▲ひの岡ぐぶり坂のこなげよ町あさひの岡
乃峯といふ茶やともあこ三条の大橋らひあ
岡と六一リある志▲御廟野(ごぞうの)若大和尚
志賀乃松とかきせあひ此所よあう
此所をなしづくとも多く此り方あり
ひ不よれくつぢゞりあてよかりとか
そら此べ不とさゞあし也へ淵べゞの
といふし此所乃方みうかもに此
つもじあとわき巨丸うしゞふところへおれ
▲山志な中ふの下たゞこの名おし
三條大臣ちかみて世よ名んよりハ寺拝の
云やれ茶木とありまりぬ也
▲左の方よみかとある岩ここより五条(お
岡内て五条乃橋へ八リむろともある
▲左の方わらご霊あり新屋つ茶やある
▲右乃方ニ日まんあちうれでんぞんあよわり
▲右の方ニもりと大明神乃みるなわり

ぐちの川家ちの筆し▲たこのあ
ちい根井れいの北のおくまんのあ
たし▲あこぎのそばのみこびわく三野もの
ト今の関所きせきそあるし▲六地蔵の
雲あこてと十福ぢんとのたんおいのけ
あこのもしかのしこへあるし▲ひらがな
ちかたこ大津のとぐくをせいどいとるあ
▲そうつまけくそうやあ▲天若いけの
川そうのあおしみいろくの絵をみて
うるし▲わの故茗八はけれの実ふのとこ
ろれの方よせきるのを茗小堂小町ふ
ふよとこるのつやのたあ小町八を
たう八美女めてびどんのきこをせた
ぐびかくあのたたいそとぞう姫のる
ぐれどくそそをかあを名ちしぐのち
まハきやうたしてころでたとこもとさの
うどとしてそびせたちくんよあれ名

をむとびてゆきころくんよめをこひて
いろしけてこけかくもそ時のえん
ど陽成院ありれわれこのあをトら
雲のうへのありしむしたろねど
としのれおどらくしけ故とふ
人もてれてせそれば小町れわへど
雲れとハあしむしたろ絵ど
みしらぬなあの内をゆうき
とわふむどしのうこのうもしれ
めそれるめべふ町ぐれせれハふ
此の道市系整をこ市家ふ小町ぐ
石橋のこ人をそのありひわつそん
奥州よりでしたれ市来整べうれ
ど有れこのあとのあ整変四をを有
秋風のあくよ付ともわかめく
とひるとわやこそそれ来をうけ

へてんけまだかゝるきざしまゐらうべの月
より一とやのもとに見えへねこそ風ふも
まるで素意にあらひしやがて
小野とハいりしきてきこおひろり
とうの名とつけての名はかうべ逆
からこ石塔とれて〳〵まかうぐ小町ハ家
よりてもひかしくぬねわふ坂の九方
にはや紀行あやか石塔あり

三条右大臣
名にしおはゞあふ坂山のさねかづら
人にしられでくるよしもがな

清少納言
夜をこめて鳥のそらねハはかるとも
よにあふ坂の関ハゆるさじ

〇八町坂右の方に蝉丸の祠の旧跡あり
是門よせ丸のなごりごと

紀貫之（きのつらゆき）
あふ坂の関の清水にかげ見えて
今やひくらん望月の駒（のりかが）

蔵家能家（あうそん）
あふ坂の関の嵐のはげしきに
こよひハ越しあふ坂乃せき

せき乃明神とハせミ丸の霊を祭るまで
これやこの行くも帰るもわかれてハ
しるもしらぬもあふさか乃せき
とよしいひし八家その子之あふ
さらぬよことわりてひとせんて世
とのがれてたのしミまふを明乃うき
世乃中ハとてもかくてもおなじ事
宮もわら屋もはてしなけれバ
と思ひて此宮乃尾まやの君之
かくさの素まれ明よりこれが
ねむりさざ坂まつりてそうふ
なんせうとやきまうり明よみう
どの給よりて家ひまでまりて
わごんとかゝひろるとくやせ丸ハひき
こどんよめうとえて世よくひか記
らべ参しとこ流泉啄木の秘曲とつくへ

しもに河内の国なべし海を近江迄
出ぬ乃川子ゆそおもてなれど山実の
わりをぬ乃文川ゆとろう
清夏　よと雲八ふるもよわれてゆさの
せれぢ乃ものれしあぞあけぬる
前撰井　志弁てやハ秋ゆ乃んお波乃
入た　せきの乃けゝやれ秋の夕ぐり

▲大津ちとごや町八町ゆ町入古へ古
城乃ゆ志▲れ乃つゞ

大津名草

▲のり弁ゆ志ゆ　文▲ゝ　元亨文▲人ゆ八十文

▲れの辻ゆ八ゆ八ゆ三野ものえひもハ山号
ゆ志笛山とゆひもの号を国撰もゆ戸
ひんゝゝそ和尚大師の流でしゆそんゝ
ものゝ乃ゆ文家れゆ　ゆ乃ゆ文家れゆ

ゆ志ゆ志おもゝ多るゆ志ゆ志ゆ
ゆしれゆりめ乃れ乃ら和尚ゆのゆ
ものゆ乃でゝといさゝ法海のゆ
つゆてたらまらい尚おきりまゆ和尚
ゆしゝ乃ものんと三百房引てひゆよう
ゆ乃ゆ志ゆ志ゆ文和尚百六十年お
しゆゆていゆ乃りゆしゆしゆゆしゆゆん
のゝ乃くゆゆゝゆものゝ乃ゆ志ゆ
しゆゆ乃ゆしゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
乃ゆ尚ゆゆ尚ゆ一代流教の法ものゆ
しゆゆ法流いよくゝゝゆて一約乃
徳領四海乃ゆ乃ゆれゆゆゆゆ尚箇
の乃ものれゆ三ゆゆて天下ゆうそれ
ゆれれゆゝ天ゆ天皇天武天皇お嫁
天皇ゆ三の乃ものれで乃ゆゝん者れゆ
ゆハゆものゆ乃ゆれのゆものくゝそゆりけ
る尚へよ三野ものと名ゆゝまてとゝえ

ごうのなるハ毒しんの乃こうく
ゆさ乃くよあるぬ　ぬのあるの又国家義た
ひでさと乃きゆ　ゆんせて主てつまとゞ
よゞうのけりゞ　ゆゞあむて文保二年三
三弁ちゆんしやう乃時ひゆゆを山門へ
れゆをてわさゆゆをつきけるゆす
うをあるゆ　ゆ　山わしをほく
を義ゆバなる　ゆけつけをゆ
くをたきよこ　ゆへて三年人三ゆく
ゆてられよとゞ　てきうりるを河
ひゆゆらのゆ　ゆるゆをゆ　三弁
るへゆふをゞゆ　ゆりうりる山わし
いゆくををゆく　をむとるれ山乃
うゆゆ教ゆ　たゆきいを乃ゆを三弁る
へけとをゆゆ　けゆバひゆゆゞけへ
ゞけよう今ハ伝乃用ゆうをんこ
てをられをれ　あつめて三弁ちへおけ

るゆよゆる時一ゆ　ゆかへびまりゞ
ゆを尾をゆ　ゆりてをたうしよ一歌
乃円ゆをゆの　ゆを歌ゆう今ゆを
れバひゆをを　ゆく人ゆを安国長歌のゆ
めをおどゆうて　ておをん当門乃ゆる
つきをまつまり　代乃ゆゞきゞひゆる
ゆ歌を乃ゆ　ゆを筒井の浄瑠ゞ房の
わとをゆゞゆ　ゆ歌ゆ乃ゞゆりゆ海
乃ゆのゆのをゞ　ゞゆゞゆるゆりゆゞ
の一門去ゆて乃ゆ
わゆゆハをて　けゆんけ引ゆと乃
月ゆを乃ゆ　ゆまゆぬゆゞかゞゞゆ
ゆハうきゞゞう　ゆをハゆゆんのをうゞ
乃つゆりゆゆつ　ゆゆのゞゆゞ中ゞ
ゆくゆれゆて　てゆてんけおゆゞと
ゆるひゞゆりゆ　ゆりて河ゆををゆゆゞ
いをゆし伝ゆゆ　ゆかゆゆんの伝乃

そこハこゝかしこにあそぶるべくハ
かしこにおもそなりとこそあれやと
ともや岡内のひげひかりのさけこまつ大
ここぞ今津并ニむかつ・ひだ
わしのひかりのある祢れねまうしま
われはしぐるゝ神な月なか
むかつ山おつ秋られハまつのれや
駒の一のつ妹ニあらしとも
わかち山色けれそらしれ衣ぬるハ
ひだのさとよ衆よりつ
竹生(ちくぶ)嶋ハ嶋ハいかに京より大里のれ
あさの内のおまてようき新つり嶋乃内よ
弁才天おはしますぎやうじがつかれぬ
仏之嶋ハまつ楼つまんとてころざし今かた
目まちそくたせりてごさんもちておまし
かられうちおかれる扇がき
おきの嶋・長向る・志ほ・山田・矢橋の浦

くのうらぞ見んなる▲志が唐崎天狗
大里の北ハ大津の東ぞまて
てんがのやまことなる
ゆぐかぎやしがの紅葉をわきかしせ
むかしがらの山ざくらなる
見ゆるおきゆの海ハうつりか
かくされのうハしんがれうらぬ
る銀喜よりいせきこえて山科の
ゆふの下とよみく訪るなる
▲京町篇大乃よこ町よ此乃美なる
▲村木村大ニ美なる九ニ三とでのなる
中町もとらて滝町もとらふつきこえ
かやぞせへりのあとまでよのるゝ
▲萬(だんま)る村小川二つなる西乃方九川せ
まうこ川と云河今まへ大蔵ニ昌めの
縁のうれ本為義仲乃縁とそくきき
の木ニ本志るしなかのまかうつ八年に

と西海よりおいかぜとていきをひさぐい
かれたるねうちもんれたひつきのこみて
もんぎとをもくびひめよどんこういさ
づくおらてつねばとうひれるがらびさ
ひわらもぐかくされの一きりてりうう
ひえの山ともるひひ多の山ハ主ぎのう
きもんとまりうちたぐんりりうとを
てげつぎうせうのむをみぎきて白洞
のひりをわくハせり鴻義大仰より
さうくして芳ハ三の房れのきをみ
べたれ数多人こりしとや坂号池
もりんぐまのれ分ぬりのハかを川の
みもをこ方りさいと山法仰ことのさ
ましりん今ハやりくおしろぬん坊の
数をくぐ多ひ弘持無ハ出氏名伝ぐと鳥
ねぎりく泊ひえれ私りゆぐをき
くされりきこれとやめくさり

▲あらぐが条いかあくへ本名義仲と称
聞官義仲とうてひてくされ付まけ
わをぐ乃多りり国こるををせとこ川ども
わぐれうをどをゆうびをまん分れ
矣よわりりてうれのひくあこ
せれ・えてわるりりれわるぐも
もあよんへくげをとをか

▲膳不恢た方が義方三弘ハいうくへ
わいこのあよわくりりをまくせこる
たぐこきもうぐいの紅こ山まれ彼りの
用て分れ性ぐをかるゆくよいあをバ
膳ぜ膳ぜとりよこ膳ぜとりくくを今ま
くくてぐくいりこ▲れこハまんりまを

▲もんら鴻彼りまをひ的彼ハ三弁りの
らんぎりこちをもんくハひ多ハ出乃鴻
義大仰のでくりりぐれあよハ唐
くてをでよこてうもあよ附西尼

八ちんをまてうの名ゝの山ゑたち
まちよろこんとせ時大神宮を
ゐ立おて十方と礼していのりぬ
ひしぐぎりの儀拍乃をどうぬ主
うんどきの乃ゑ拝おとんじて弁ゐを
立ゐ文ちんらた四神八まのわりニ
ゑ乃ともれけどんしてらぐゝらぐを
れゐふひ丑ゑれ弁てぐゐ日中に
つきゐふを時ちんら四神のゐく我八
をちんら西乃神と月弁西よりてん
とのこまひろ八ひ丑ゑ神をおら
ニ野ちれちんをとうゝをうりを
ニ町狂ひバ太乃方田中ニ今井四郎
ゐ平ゐ嶽ゐゝれニ八ちん表ゐ五名四川村
ち左ゐたを石山へのたと執者雲省
向ひちハとぐひのらぐんそぐの
ちりくんをうゝをうゝ

のゐろぐんとれらんをうゝをるゑ鈴
鳴乃十ちゑれゐるゐかれをいゐゐひ
をちくのをうゝそをうぐんをうと
めゐふらぐんハ弁れのうてゐ海ゑ
うゐひてこてうゝをめぐうゐふ二
人乃ぐきゐあてをよてけてうを
ぬつうゐゐひしぐらぐんをうゝを
いちくひ出ハを執者乃立ひらとて
とぐゐを家ゑとぐまうて拍会ゐを
をそうきけををまうれうをせまうゐ
ハひの鳴弁ちらぐんてゐてを称
んしゐひしゑひ丑乃とぐひハ執者
句ちゐふ名ぶとるべゝどとをる
ゑ和て奥引分金をなる毛ゑ分
て大仏ちゐちく後年て当りゐふ
とを毛ひとゝ三ひ執者のれらゝん
をを石山をとうゝ三をうしゐハ

又ごぜ〜とうつぬん乃女房しゅ〜さんえ
きぶハ石ゆよこと乃うり就ゐるにゆうり也
うけ乃り八月十五夜の月こと乃ゆう
つうるせこそとゆさうんを考う
ぎしゅ乃ゆうらと泊て源氏物語を
作り也海わし丹巻を今年初て作り
茶屋　初ゆをしんやまつ〜んい山乃
うゆよのくまる秋九夜の月
▲勢田小橋長さ元文の橋乃うえ方
ゆよおきき乃橋うゆ
医房　まず九の板を苦ゆ小丹ゆよう
いく世迄ぬ〜しんせこの長さ
郭月ゆかるおかく乃ゆ
こよそそしうてひろ又ゆこさ
足橋乃ゆれて石山方ハふにわうて
ゆるりゆ〜ゆひら方長ゆ〜ひ
ゆるゆいくゆ方とゆ数ゆ〜ひ橋

のかゆよとびちう数乃りうゆ
ゆうまうゆく町ゆうてそうれまん
わうり又をうまうゆうゆれとゆからて
ゆうれうりてゆがゆをゆ海ハゆ長
ろ九ゆえゆうぐ川ゆよゆるりうるゆつ
ゆて流下ゆうぐゆて八九政ゆ長ゆと云
宇治橋乃つゆよ大ゆ九ゆ橋乃
ゆのびこれゆをれうらハくせを
わゆうひうをんやゆぐうん
▲勢田村町せこれ大橋長九十六間
あゆはゆの上方ゆよ石山乃就高畳
ゆ高ゆ九ゆと長橋ゆゆ小▲大ゆ八村
ゆよ高ゆゆおゆうゆ乃柔やゆゆ
▲ゆ乃方一池ゆ月の梅九池ゆゆ
ハ芳ハ池月乃ゆゆ九ゆ就ゆ月ゆ畳面
ゆ芳ゆ流ゆうゆこれゆつゆよゆゆぬゆて
ひゆ九ゆをゆきゆ乃ゆれゆんゆ乃ゆ

野旅のまかハとこゑ之大一ト八十
様る乃まゑこのみまてと名ふゑ▲志の
分れ筆とゆる御ゑこ▲やぐら森れど
やまうじがのうちとて名あゑこ▲左方ニ
おひけゑこれの方へ行バやかせへ行ゑ
やかせち大沢へ弁ニのる▲左方ニ北の
社ゑこ▲草津札辻ゑこれ方たゑこ見
のさびうとうゆよりたし

草津ゟ石部へ二里半拾四町

▲のうけ草文▲く鹿八十六文▲人足六十九文
▲くろ川橋あるあまり八十一
▲新屋敷村▲との村▲めうが村▲むふ
くろ村▲かせつ村入口よりくろの
池をそねまゑこれ乃山のて分あるを
のあうとかん菊る▲まうの村▲まそ
渋村なれ方よかさ走れく八分乃長

こまとてらく村くやる八中乃多
とや土乃子村とみ字ふと云ていあしへ
ひ村の何がし池晩より入そをつま
の年いまでうちくかくらあくしろ
けまバとをぐらいまあづけニまてまそ
えてどなさらるをあづうり銭めて
れと死うしゑ人乃ねをと待ん
るよとれそまて家八女のそうれこま
まそてきてまめりしよ此女そうと
て十月といふよ人乃まどろり一川う
こえりそまゆ此村とまそく二村こ
いゑるとやゑくしてまぢく村と云
▲尾乃村茶やゑこ▲九乃村▲町の入
口右れの方ハこゑ山まえ世ニ見
おむそ山と云をとめ乃そらかろう
くしうしてちハさ見ゆで乃山世のこ
ときざれふじざんわうそ乃地を掃

てらじ山とつらうあひしに一乗の内
みつき給ひり乗をてよおけまいバ
ところかうくとてよきそのうへ
三ケ山へといふをもそれらめいふ
しへ一春実天皇乃れ時にい近江の
る海一乗の内にお来てと乗二ふ
じ乃山上光勅り令時しと三上山
と申来ようり一乗乃内に山九お来
ふちのいそきえ山のうらてよそよ
りうすねむまるへいふうき九程の
わるうえといそうゆへ分きよまわり
と書ハ三上山と七まき二里ましへ
をとつるむぞおこせて三乃橋の下に
すとけるつようかとおひやりてと
わさんとうるとなまて姦をひでさと
命で二気やそて蜈どころうそ
かんに米乃なきり一門さぬ一案

命一門つりは山つをわそうりひで
と国家教をとしへばハ此里へ奴へしの
たはらハ米とそれどもく此されき
ぬハたちされども三がよなりど釜ハ
たきでかしよおを入まバぬくさうとら
やはりぎ山ハ三升るよまうて今
よお紀その姦をうくれおてねるの
まさうどうらて分天下よかくま
かえつとまのと名とわれてくり
されバ今も三上山ニハ大蛇むかでのほ
季節的店 とえハかゝる三上乃山九秋村や
やと方代のおかし奴らん
▲山て近まで下ひえの山ご見る

石部より口ヘ三里半六町

▲同 百四十六文 ▲同 九十二文 ▲同 七十文

▲なしがくら村 ▲平妻村 ▲とり村

▲かつこ村▲よしかろ村▲こくも村
▲たを峯やま▲よこて川ちぢ〳〵
▲いづこ村▲きてこを村▲右の方よ
城のこぢてこを村▲こうかゐの町の入口
よ八まんの宮ゑ弟一の門ゑ入る道
ひ宿よつぢ。りゐ。毎しきりとり。
のこかどわこそのきこの宿の中程
よ乃こをぢとれれの方よりば枕
者雲のこ大器こと絵づくいあ〳〵へ
者西江別乃くうかの村よりうの
ちゑ印ぢく宮〳〵印ぢく言ちそ
こやうぢいこ人みこ〳〵よ山にまりり
藤ところて世とうとるをきゆだ
いる時こ人おつまてりくまくよ
るうげ山よりけ入るにひ山の祢
たぢのこちよわこ山あらわ
ゆこ人いかとれてまけうしとこれ

かことぢまり祢とこちひてつぬを祢
とこりとりぬわよこ人藤とるよ毎
うげ山といりてこちととへて若そ
こへかとりぬれを死世作てたら
まちよたゆとゆよりをとむ祢こ
わかかまてもかりゆこかきこの去
ホよぬけとるこてよこれぢこりハ
こ沢をこよ山中にて大ぢりこめ
こりれりときてかかこなげた
やそひ教者雲をつくりもかくわと
とこ〳〵ひ〳〵よ此こ人にわりし日
かの大ぢゆるこをゆ〳〵くれとひ
こかれ去ホるりこへかて夜こう
れが宴人おそまてぢちるこい
しもいか〳〵のこ良ことかりまをわ
ぬこでこ祢げまバちおそれてちづた
これハ大ぢゆゑとこかへどてかて

秘てしられわきまへしくたんげんなる
すゞさとりともかれこそづかかしこ
観音堂乃あんの下よりへ入さぶらふ
里そ南無観世音ともうとこかへん
ともされあさこりくしてこかへてまゐ
どうで南くとじりなるゑおさ
じけかくを観音のこげんなひりと
もからてなまどてしゆへかむさや
りそれ然て南無観世音えがさうと
とあそりとなのトにのなまさら
まちよもねけてものそちがとゞき
へよそりそまた谷底ようけまたども
さし妻子ハおやしこおそまで侍りしぞ
さんがおんおひろかさけりとれなく
後まハそのこれどくやぬおやこ
のちぎりとあてわきうれうりし
くびたれた沼脚もおそまでむびん

ちより三衣につるよかゞしち乃拝領候ニ
然てぐでそらハ文むかのくもことび
きりかりをさ大明神乃けきんまそ
みとるとへ乃ゆめようげなり

みかはかれち山へ弐里半八町

▲同 百六十七文 ▲同 八十一文 ▲同 六十一文
▲あんきやう村 ▲さこむしろ ▲いかゞ川 ▲今宿 姿喜く
▲大乃村 ▲こくり村 ▲いちゑ村 ▲いも
むろ村 ▲まへ乃村 いふよわさし湯あと
▲まつ乃き村 ▲そとの白川橋長さ十丈
るみこうさんそむ切あこ乃中二ぞんの
名おもし ▲宿の中ル方二田村大明神あり

しらかは坂の下へ弐里半

▲同 百六十九文 ▲同 百十二文 ▲同 八十二文
▲いそ乃なかやみこわめをせんでて道

▲烏川橋長さ十三間あまり上の雲山
みそ田村兎三ぢんとてひとりと
すつるへしあまり▲かゞが坂あがりえ
こうハ坂乃上右の方よ雲二十丁ばかり
をへだてゝ三方雲見ハ花はいところ
みどけわみてよう来乃人をみや
まし偽りしれわると元含利偽へ
人をとぞりうるよかのむげもの
わぐり偽とおからふていろくか
んらハかよらのそなのましきうんと
いふけねまへて云かなそるとさし
ぬ眼天よりけり人是横りしてた
のしもとに偽とおからさと
つそ云横りハあまりとよありぬ
眼天よつけるもの毎々そゝとさし
八是みしてよことよりバかんらハさ二めぞ
かおもらのどやといふれてとぞこぞう

りつひとさがりかゞくわざりひと
せまりあるもあまりしそ今こゝ路に
▲ひ坂の上今わたのあうことのあつ文
みはの城山をこゝある▲めやかやゝ庵
わりのきらまするかどうる▲沢江乃
ありでこてゆそいるさわくれてう
▲なづけ筆やあまをもつ道のずいせ
とわたのさくいへ▲三つご山れこゝある
こうのまなかびさりせうゝ乃あまた
のるまのもひ山乃雲のてをあへど
ことも風をうそひ目よりれゆしと思之
▲坂の上よ西村ね軍乃社あり▲坂乃上
八町ありことのみかんぢよえるよのるだ
りもど▲坂乃右の方よ社あり世二アかう
りさるハ代邪ハまつりあとてて天照
太神の御母ことやすかれおがつゝ迄
そのうち天宮天皇なへのもの申かれ

おびやうれうの事をおてぞう
とうていせうの世のおろうのひいき家
のてをでのおさかをおらち天皇
とう主をもうたれ文へたうをもて
さあくをうとをめぐしいくさ
よりのひるを義の祇こもり
▲宿のうちよりはこうのうをうたの
下より川かれて宿ハ川ぞうでたて
のうをを武代のえそうの年折でさ
たあうのうをまてあどうつとあくをと
を河をうの宿ハ坂をもを七八町ばりをだ
惟敬ト　をでうのうををのわされをび衣
をうかまてうとんやうをん
西乃法師　いろなりの我者をるん
於安汎　世ををまバ不一紙をうをでうの
ひしれ今よなるをわりん

波乃下分せ元へ一里廿八町
▲同　百十五文　同　十三文　同　十六文
新茶やうをあハやきをもををを
りりてうるを名ものを▲くつけむ
▲をでうの川わるひいたをかれわるハ
なよかれ又ハかでをとけるをでうの
波の下までいくせををのびのへるハ十
瀬乃川とゝ波をもを
像麿　ゆうをめをいくうに敬をでうの
八十せををうめ文月毎乃比
空麿　えでをのををやをでうの実をん
[illegible]　ふりををでうに元乃げうか
[illegible]子門[illegible]野をを文分ををを文
をでう川八十瀬乃
かをうをうををせで
ひうをれをでうをうれ

世話今毛也へ三星中

▲同 六十九文 ▲同 四十九文 ▲同 四十四文

▲家をせきと申すハ、むかしへ逢坂
の世話わたくしの世話ハせき
のせきの世話にせきと三関也
いふハ坂をして東を関東と云
ならひのせきの世話ととひ
くるに宿の内にかゞ竹をたつる
やまけ火をたきて東西より来
いせまいりのさびしきくるを▲太こびやう
のむかしむかしの一休和尚てさく
あまり酒ひにこれハおもしろげさつ
を作りそくたる事をとつて来る偈
のなかとかくんとたのしてかんずべ
しそまかるおもしろ一休を見付なり
てかんとのうしがハ和尚いとやを
くうげかいみひ〓おもしろむひて
あるハ立ころくハ前ご中ぬまの
かゝるときてまた目わしめおもしろ
ことてならとまうすひねざいふの
みくやとくねすかおきそくかん
くあしとやるすハいぎくしく泡とよ
ここをかさねくのこかりきべきき年に
それとかれあとちかして千と〓う
あふてんへ孫とそわるうちきるの偈
とやとひてくハんとしてかと〓の偈
としくいぎ紙つくり九條乃け
さみえ具さざこれそへといふの者ど
おしとうおもしろかゝんん泡をこと
まづ子よおこうざみわかりえかう
らうこ〓濃のすわくと見のべへ
おもしろくけひがして〓わらう
まことかんゆえ今ハくうゑの天人ひと

しとなりしからんがうふえんにまかせてへ
やすみけられへハ王名ときこしめして云
かれはさん条西風れなかんと申すくやかん
あかん乃おそまきとかりんさうてや
けんしやる八幡うらんしんもたなひける
ぬかすごうわりといふもをさうめちうづ
きやぶるなくれなんどくよきこゝろすぞ
そろへていひかくしもうけれなるをうら
なしけまへハやくよゆめんそりことそまなこの
くひなんくやうなりまとそれハきの浄と
かじりうを放ざい不中ののり心ぶ
すつきまひにぞてつぞていくめハ偽の
くやうなりて目をあてまるもとい
まけとかえくやうよあまあみてけるぞや
すとめどくあてせ人とひとひて太鼓つ
きしてみづひる雅みくくしおどろなつ
御ゆよびつてまびすどいさしなれど
みさきのおとさかへかゝりしかばこゝろも
おづまりたまひて今に関の地蔵とそ申
おわります▲関乃宿の入口におもかげの松の
方へゆけば伊勢参宮の道へまゐるなり
▲右の方に市羽のちくら山をうしろ
りと山あり▲かめの町村▲せき
川▲おちやう村▲野村と太乃方にあ
海あり▲宿町乃中に城の太夫屋敷

亀山より庄野へ弐里

▲同 八十六文 ▲同 五十八文 ▲同 四十四文
▲新町入口より亀山乃城にあり▲りやうの
村▲かめ村うしろに楢のあるきさ十二丈あり
▲おのぜんじ右の方にありいせの白子へ
道▲あら村▲いつとう村▲いづこが
橋長さ二十丈ありいづく川ともいふ
▲とごり川▲あとところ八王子乃御神あり

▲ことし▲ことし▲くこかり
▲ひたちの名物いたてんもこ来こ儀
のめいたきさのめぎりこぶ〜紙こわと
紙を紙まそわこまん中とみわとんと
まそつのくしめつとこめのうみて
内ゆやに来をとて〜入りもと広の
儀としひつ〜て注来の旅人こうこ
義白ニ花ら〜むじいろまきうの来掘

石薬師（二十三町）

▲同九日又　▲同二十三又　▲同十六又
▲うかぎ町あれの方ニもでくかあがを
川みとかい川こ▲町乃入口ゑれ方の坂
のてに茶師あひ茶師ゆ来ハてじ
けかくをを道ちんこいこんかんこい
すりかいわるる蕎面石こしたぐこは
ゆくとれのいい金ぐりかう

石薬師ようめてい石薬師ゑ回
くいかそこかをまりしゑをくこ
茶の大徳ゆ法師伝来ゆの例
ひれいいまのこあ山中ゆるるよるひ
こりくやきしとひりとこびくこ
まかゆ代蕎面石山中ゆゑてひりと
こからかこりをかめこりまこ天の
ゆこ作ゆこそ例ゑ石ををまくこざ
の伝ゆこそ茶師如来
こそやしみのいと作りめこり獲
といりまこりひとこふをれ爸
をこやうるるるたこハ若乃ひきよ
ゆまとるびとやきゆ分面ことこ
こぶこ▲ひてんこんれ乃方ニこ

石薬師から四日市（二里半八町）

▲同八十文　▲同六十一文

▲りの宮▲右の方南の四三町の茶
やみ▲大岩茶やみ▲小岩茶やみ
▲江えつき村つ五江きはと云坂み
まんぢゝみ▲うめ町橋ゟ平野
▲あかけ町合右へたゝいせぐこう
りたの右へ▲ひかの村たゝ南の表み
▲あかり村れの方こ南乃こりみを
中三天照大神の社み▲えまこ村▲小茶み

四日市ゟ桑名へ三里八町

▲日　百五十文　▲日　九十五文　▲日　七十三文

▲ゟ江ゟ江ちゝゝ木三るみ▲ゝこち川
▲えづ川　左橋ゟ十九るみ▲ゝゝ乃村▲ゝゝ
めやゝ▲ゝゝ村▲まゝて村▲あさけ
川　左橋ゟ十一るみ▲ゝゝぎ村▲ゝゝけむ
▲ゝゝい村▲まゝや町　橋ゟ西大ゝゝ
百ゟ十るみ左橋ゟ▲ゝゝ乃村▲ゝゝの村

▲やゝゝゝ三町▲れの方ゟ城み一町ゟと
れば城のたゝれゝゝ江ゟ▲ゝゝみの
ゝまゝゝゝゝゝ日付の大ゝと
ゝゝゝゝ▲大橋中橋ゟ高ゟ家ハ
ゝゝゝゝ乃名わゝゝ
ゝまゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ　今ゝゝ川二九九濱乃名ゝ
名村法沖　見ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

桑名ゟ文ゟ二十七里　本ゝゝし

▲ゝゝ　七十文　▲ゝゝ　百二十四文　▲ゝゝ　百二十四文

▲ゝゝ　二百文　▲ゝゝ　二百文　▲ゝゝ　百廿四文

▲ゝゝ　四十文　▲ゝゝ　二百文

甲州道中記

[illegible]　三里

[illegible]　一里半九丁

川面二人ゑ　二百八十三文

[illegible]　人三十七文

[illegible]　一里半九丁

[illegible]　四十七文

[illegible]　四十九文　月三十七文

[illegible]　二里半

[illegible]　月百五十文　月七十文　月五十四文

[illegible]

たのり九里

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]うきひハる潮ゞ[illegible]ところされ
[illegible]上方土場通[illegible]と[illegible]仙人を
つゝて[illegible]うきひのくゝ[illegible]
わるとゆ[illegible]まてよりうゑさんよわ
そ[illegible]まれとそゆ[illegible]まりしかをかハ
らひわるゝ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]
ぎゞ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
山[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
て上[illegible]ハ[illegible]村[illegible]
ら[illegible]の方へ[illegible]
▲わ[illegible]
こ[illegible]
[illegible]方[illegible]
わ[illegible]
[illegible]
の[illegible]

そ[illegible]ハ[illegible]
れ[illegible]
[illegible]
ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

いかるがたのみてこれをうちたまひて
さけをよきたるそのさけをうちのみて
まへにふしぬ時にやまたのおろちの
をのおのの頭なる酒のうつわにいれて
八くびもらのみてこれをのみて
八重垣つくるその八重垣を
とゝのへつくりたまふときにそこのくにに
すがしきかをなりけるとなん言ひて
さくしまりしハ櫛名田ひめをもちてかくれ
給ひしあとをたづねてこれをもちて
宮をつくりしハ出雲の国なり
ゆゑにこの大神の宮をハ今にいたるまで
出雲の国の大社といふなり
大神の子孫大名牟遅の神とハ
申すなり

酒をもつて酒をもつてこれをのみて
つのしらをさしてこれをのみて
酔ひたれてこれをのみてこれを
見たまへばおろちの尾のうちにつるぎあり
とゝぎすのかをりの如くなり
とゝぎすのかをりの如くなりとて
尾をきりたまへばつるぎの刃かけぬ
あやしみて怪しみて
まへの尾の中よりつるぎ出でたり
これをもつて天の御蔭
まもりれまびまりて中をかけ
ふされバそさのをのみことハつしま
の半所天重こいまだ姫ハ拾殿をそう
つくしの国におとゝ中ばかりの所
大ぞの尾よりみてはハつもよ八重の
雲さちおりひろ重よりの天のむらくも
大神と云ふ大神ハ八十握の剣とぞ
しるしの大神ハ八十握の剣とぞ

[illegible]ぎと切て姫はわさとうちく切の数
[illegible]の尾の[illegible]をそとて[illegible]
[illegible]ぎはわさとうの[illegible]ぎこの[illegible]
[illegible]ちち天照大神[illegible]孫の[illegible]
[illegible]て[illegible]のあ[illegible]
[illegible]の[illegible]とおそへて[illegible]
[illegible]世と[illegible]
[illegible]のことと天照大
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

しかのかの史とぐくきんてう又史石
とあげけのひれのひれば石ろ史おて
むりんのやりぐ〻よりろくおりく
やけやろびしらびつるよかうさんいて
けりそまろひ物をくさかだの物とハ
きしえ極月とハろ四よのりやぐり強ふ
よ上聖の浦史てかこ風わりくあうう
ぐくんとにこやと推うこに入て寄邪
とかあるふつるよそ八毎よりわが
ひ史ひそまろうづけのあうとかの
さけよわぐうた強ひ東乃方にむひて
えそと姫とこしひて貴妻くこてかき
ひしりう東国強をしあへてわづま
といやこえ文をまよろおろれくふく
ケ文と姫の裏よりたる書の本
よかろ者かきろ物をうしけて湯わ
びるふよまを変ふよりえうきて田の中へ

なりこれて四乃ろわうしゆへ
ひふとあうこと中へこと八それう
びきよ入ゆへ八の大ぎいびきたの
祇ひ人ゆる蛇とわりまこ乃中こふ
ぎりひちをそるとびこのまわりのさ
祇をうて大ぎ乃ひまよわうそれ
ろりひさりゆひ大強つきさしけるを
たりかろりよあうるむろよれわ
とさしひさしゆ虫八を強つきこあゆひ
ろりひ四へこまを醒井と八名衛ろ
くこそしゆ人ともわうばさゆぐ野の
きそ乳ろ乳こと八大ろをわれしやんん
面とうてとびろりゆことでまろ
ゆふ祇と祇といこひまりてかこの蛇
ろ白ろ乃祇とわりれゆまを浪白ろ
紀伊の蛇名草郡紀の三ぐくから

とぐまりのうがひ　ふとあり　くやみ
しん東西　ふとこびろう尾張乃西
松子乃浦　ふとまとびりの玉子
の浦ハ　ろくと姫乃らくいろざのすくね
乃西ふし　白名ゆ　るゆとびゆひ　時ハ
長さ三丈の白幡　二ぶれと見して玉
ゆ乃浦ゆとびおら　ぬひ西へゆひふとバ
白名　懸のおらろふとば
ろやといて今ゆ　ゆの宝船とひ
ふゆ玉とそ　玉といえひまろ　塾田大
明玉とゆも　東乃方ゆのまれろこ
とひふゆのこそろこ　深の美鈴むりんを
おろしくさひら　まけもをおらぐ
つもゆ面ゆ　ゆくまゆひ　ゆおぐこ
ひまり玉むこの　ゆこ清ともにとろ
ろふし今ゆ　ゆとも乃せんろこ
▲玉乃方ゆひあ　鴻ゆのゆふ人山

▲三り花川ど三つ　まの天王とそ　京
のぎをん久と　ひと神こ

名所名物記

▲円　六十九文　▲円　四十五文　▲円　四十五文

▲玉乃方ゆ　仙人　撮みむ　ひろ　りつし
の仙人うき　木ゆのりて　ゆるこの浦
ゆわぐひ　ひふひ　ぐまりて　目とおく
ひと　姫ゆ　大　と　欲て　天ゆのぐりぬ
天　ろ　こ　ま　ゆ　ろふと　仙人　撮と云
▲玉ゆ　ぐ　の　城　ゆ　ろ乃　今　ゆ　わ
まり　こ　▲　ぐ　ひ　撮　▲　と　ぐ　ひ　方　の　方　ゆ　う
こ　ん　ゆ　る　▲　ゆ　ゆ　る　玉　ゆ　ふ　こ　ゆ
ゆ　開　姫　ゆ　ひ　ゆ　る　乃　名　ハ　指　輪　ゆ　ゆ　撮　ゆ
と　ひ　て　玉　ゆ　ゆ　の　美　場　し　ひ　ゆ　ん　と　ん　ハ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ひ　ひ　ゆ　ハ　ゆ　ま　ひ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ひ　ゆ　ハ　ゆ　ま　ひ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

孫四郎殿（そんしろうどの）と云ふ▲右三人者共なり▲田島（でんじま）橋長さ十間

正二位李能

風吹バ吹そ花ある事乃ゝ
初色乃ゝ
かゝ事ゝ
上野くたとゝ
花ゆゝ

▲同、百七十文▲同　八十文▲同六十二文

▲ありまつ▲あるかふ村六月一日新米
初る▲いなとら村三川と尾張とあさ
ゝ橋ゝ▲いも川うどんそば切あり中
一ぜんよりゝ▲あゝや▲たの方ひらか
きの人馬郡あり月中

▲たの方ひらうや乃城ゝある町の入口よ
たゝ乃方より此茶やあり

鳴海今ハ鳴海宿ハ三里四町

▲同　百七十文▲同　八十文▲同六十二文

▲海乃今ハ宿ハ三里四町

きうせんあり西ゝ方より八橋の
を一文ゝ乃ゝ
花を八つ
の中ゝあり
八橋乃さうべ
かりかきつ
上ゝとてゝ
かゝゝもき
ゝゝきゝ
文ゝ
▲ゝ西▲今村茶やあり▲尾張ゝ

ひるよりえへたをでみこ小濱海たこ
▲うとこ坂所みこ▲東やえ況▲あいえ況
右乃方の田れ中にてゆぶみこ
やえ況乃右右のむとあ浦ゆりれ
おのゆしきこてとやえ況と名付海
すハきくく月おく成のそる東奥筑
りろぼえんとそひおみりて表こお
りく作くせてまてにりて表え況と云
▲表え況橋表さ二百八尺みひとてハ
ちくハ左橋みてみてうがこうどのの
時おりかがされうけまびらう況ゆ
板橋よ敷ひうり是利高民と新田
義貞とひおみて大分る合戦みておこ
▲所の入口よ表ど川とて河島橋あり
表さ百二尺こ▲右乃方よ城みこ

恩藤ゆ数川へ表里九町

▲月 七十八文 ▲月 五十一文 ▲月 四九文
▲けのうう ▲大平川橋みこ表さ四十二尺
▲ちうされうう ▲うれ乃方に川表やり記
あり ▲おのうう ▲家のへ
ちかうやひだとそりの茶いりの数みこ
▲ちで川ゆ茶と表山えたと表おとて表こ

ふじ川ゆ表る赤坂へ二里九町

▲同 百七文 ▲同 六十八文 ▲同 五十二文
▲中右の方ニりうさりじと云源左ゆの
るみひるゆそ東照大将坂出ゆ乃
時れて分ひわそりるとて云る清
もちばりる山くさるきりゆため記お
り ▲ちる浜出表やこ ▲松安あ

わら坂ゆ表ごゆへ十六町

▲月 九三文 ▲月 六文 ▲月 十二文

▲竹乃しもうとそ乃ゆ乃ゆ乃ゆ

もくもとろの荒井へ一里十町

▲同 七十六 ▲同 五十三文 ▲同 廿九文

▲稲荷しゐのみやうじんの社へ分れ入る
也てもくもとの道乃川へ分れ入る
高師山雲より初るりくだり
そのまゝつゞけて尽きるこの
▲所乃入口左の方に高師乃稲の社
みこの印ゞ方に雲山の
古今和歌集 二 正村ねぢ
高師山ゆきしられてありこゝる
高き高師乃もとを尽とこゝる
高師 ゆかりそ海辺よりふ藤人や
はまゆふ乃稲とかつ
強盗 右者雲乃ゆる稲とかるゝ考こめて
高師の如い廉でなくなる
濱名納豆とりのもの色実分迄まれり

▲乃のりだれせきふゐ乃安あ乃てん
んのせんさくみこをあてゝろりと浪
わるかまへ物へ廿二ケ
▲毎り切百八十文

▲江戸より今ぎれの浜海とりく塩乃
ちう色ゆ乃ふ水をゆ乃ふんひうと今
れとしてゆ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃
くらゆ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ
中今乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ
ゆ

▲同 百五文 ▲同 七十九文 ▲同 六十一文

▲これより村方へ入こと有り
去まで坂の入るいだらんとの事
なるゆへ名付る可し ▲三の原新田
右の方へ出る乃方ことなまめ
▲あうつ▲ひつ▲ひ▲町の右方に
とと大四郎の宮の▲坂有り乃方に有り
▲まんなりと▲つかね▲さるつ▲さらし
▲ほうそ▲ひ▲坂表分まで乃東西り乃
右に町在りきよんまの村と云あり
菖蒲沢なる可菖蒲頼おりくるあり
今も坂表ふしたをかに祈願して石塔

坂表分より八幡へ道法

▲同 二百五文 ▲同 百五十文 ▲同

▲天正元年十二月下旬本田雅楽
同初分綾向しと後廉と合戦なる

ぬかれ ▲を海町なるとんてゝまの方へ
りの坂紙と云乃あり ▲三人会橋あり
ゝ表乃橋とゝあり長さ元二乃あり
▲ゝと村▲町の入口なる乃に[illegible]
乃有る▲村乃はの方表山九内あり
表乃橋あり ▲あんまの橋あり長さ十四間
右に坂まの▲九の方に業師表あり
名井表と申一方の人数表一ヶ所
▲中の町▲大天窪あり ▲ゝの川と
成右あり乃わきんど百姓の人
後右又で九ゝ坂あり ▲あまで乃ともが
ら表ゝ平石ゝ在りきまを九ゝと
んぬべゝ若あてゝ ▲ゝゝゝとるゝ
とろせんあてはゝ ▲ゝゝゝらまけて
教よとてまとる河ゝ川ようき橋と
ゝとゝてゝんぬゝどもをけゝとゝて
坂よゝぬゝけゝんとゝあの三分れ

つくしてうれ物乃中ニ入るゆきれ
て作りしをのしぐ[illegible]
ひとともぬぐとびとゝ[illegible]
▲ひ川と云乃ちゝ[illegible]池田乃宿の[illegible]
去る乃をゝ[illegible]
[illegible]去るのむとあゆやと云海[illegible]
[illegible]乃家[illegible]
今ハ[illegible]
やま乃石橋わと云ゝ[illegible]
今ハのこれり云ふ[illegible]
池田乃方へ出とつくるとして▲川のあ
の時ハ[illegible]
法乃時ハ[illegible]
き▲名ゝり▲そうゝ[illegible]山乃麓▲中ゝ[illegible]
▲町の入口ニ板ニ[illegible]
[illegible]八幡[illegible]
▲[illegible]

▲そうゝ[illegible]
ぎゝり物ニ[illegible]十二乃ニ▲町の中
たの方ニ[illegible]
▲又ゝ[illegible]
池とて[illegible]
わ[illegible]海老と[illegible]海法師ニ[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

とゝとそれをゝ乃命をたゝらをきうあ
ゝ蛇身よりとゞたゝらなり我大ゝ
なて命をたゝらべしとそでの法師
と法ゝをつゝて位ゝをもとあ
ゝ乃ゝ法ゝ乃使者ゝ乃ゝ位ゝと
いへゝ法師ゝ乃ゝ来りゝ高ゝの玉ゝ乃
の斎さゝらゝけゝたゝいそうゝまんゝ
とてたゝい者山ゝごうをるにゝ池
あゝへゝあゝとめりとゝあゝ衆ゝの添
えゝざゝんしてゝあゝてゝたゝとゝるのゝうゝに
ゝぎゝりゝいゝきゝゝがゝゝたゝぎゝとゝえゝひゝゝあ
ゝりゝけゝにゝへゝのゝふゝとゝれゝ

九ゝ付ゝ分ゝ袋ゝ井ゝ へゝ 壱里半

▲同 六十九文 ▲同 四十五文 ▲同 十五文

▲ゝくゝがゝれゝとゝたゝ三ゝ坂ゝ乃ゝ二ゝ みゝの坂
坂ゝ乃ゝ方ゝ にゝゆゝどゝの ゝ俗ゝ称ゝ乃ゝ 祇ゝ園ゝ

▲みゝの坂ゝ中ゝ七ゝ乃ゝ あゝ二ゝ ▲ゝゝゝゝゝゝ町
▲いゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ町
乃ゝ方ゝ にゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝへゝ黄金のゝふゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲ゐる竹▲そゝ川▲ぬめり川▲ゐの橋
▲そゝれの沈▲ゐ▲所の入口▲橋あ▲長
さ十ゐ五あ▲ゐれ木の下▲ゐ五ゐ
乃門▲ゐあ▲うゐかゐ乃さゝ引あとゐ
▲ゐの方▲八まんの宮あ▲同方▲祝書乃
本あ▲それ八田之ゐあゐ面と云ゐ乃ゐ
所ゐ五ゐ▲ゐとゐけと云あ▲ゐ者
ゐあゐ乃ゐつゝきゐ五ゐあ▲ゐまんの田ゐあ
ゐまゐ乃ゐ▲ゐ▲ゐ乃ゐ▲ゐ乃ゐ
ゐ五ゐけゐ今▲あ▲ゐ五ゐつきゐ祝書の
本ゐ本▲ゐ五ゐ五ゐ五ゐあ八柳▲ゐ森ゐ
乃者ゐゐ俵▲ゐゐ乃ゐ乃ゐ乃ゐけゐ
家と云ゐ▲ゐ▲ゐけ▲ゐゐ▲ゐ者
ゐ五▲ゐ方▲男鹿山女鹿山と云ゐ山
今蓑ゐ▲ゐ▲天王山掛川の流乃ゐ尾
ゐ今川氏実氏城▲精鈍なまひ▲対天平山て
屋敷位▲俗武ゐ城ゐ城今ゐて対ゐ

早稲田大学図書館
011688998206